

# 研修だより

## No.5

### 7月ブロック研 お疲れさまでした!



7月3日、10日にブロックごとの授業公開と事後の研修会が行われました。4月末の穂山先生の提案授業を受け、各ブロック『**教わる**』から『**学ぶ**』への**転換**を具体化するために**試行錯誤**したのではないのでしょうか。また、授業者本人だけでなく共に指導案検討を重ねたり、当日までのプレ授業を計画して実施したりと、**チーム一丸**となって授業研究に臨んだことと思います。

今回のブロック研の成果、課題等を研究部で検討し、今後の授業づくりにおける「**やってみたい**を後押しする、『**学びのマネジメント**』の具体案をまとめました。また、その中から次回8月の全校研において特に重点にしたい項目を**三つに絞り**ましたので、以後の指導案作成時に留意いただければと思います。



## 1 7月ブロック研の成果、課題、改善点など

	授業者、内容	成果、課題、改善点（要点のみ）
低学年ブロック	塩見 T: 国語「あったらいいな、こんなもの」	○活動に魅力を感じ、楽しみながら主体的に学習できた。 ○学習計画表が効果的だった。見通しが持てて、子どもたちが課題を考えられた。 ●低位の子への手立て…取り組み内容の理解、取組時間の設定（延長するか、否か）
中学年ブロック	伊東 T: 算数「あまりのあるわり算」	○課題に魅力を感じ、前向きに取り組めた。解決方法を自分なりに選択できていた。 ●もっと子ども主体の場を増やせないか。全体交流でも、子どもの言葉がつながるような工夫を。
	阪本 T: 国語「まいごのかぎ」	○スモールステップを意識した単元計画で、本時では児童が主体的に学習することができた。 ○児童の主体性に重点を置いた時間を新設することで、個別最適&協同的な学びを両立できた。 ●個々の成果の共有の仕方を、ブロック全体で考えていかなければならない。
高学年ブロック	川崎 T: 国語「私たちにできること」	○自由度の高い課題設定で、子どもたちが意欲的に学習に取り組めた。 ●説明の手順など、子ども主体の中にも目標に沿った教師の意図的な働きかけが不可欠では。
	大谷 T: 算数「形も大きさも同じ図形を調べよう」	○課題が明確で、児童の発想が生かされる学習内容だった。 ●取組の条件設定によって活動内容が大きく変わるため、事前の想定と吟味が大事。
特別支援ブロック	木村 T、西川 T 自立活動「カモカモ釣り堀に1年生を招待しよう」	○異学年との関わりが意欲につながった。子どもたちの「やりたい」を尊重した進行ができた。 ●説明や価値づけなどの場面で、どうしても教師がしゃべり過ぎてしまう。
	澤田 T: 自立活動「わり算を考えよう」	○意欲的に課題に向かす姿が見られた。小集団の中で対話、交流の経験を積み重ねることができた。 ●積み上げの難しさ。その都度丁寧なサポート、準備が不可欠。

## ○ 全体を通して

- ・「子どもが主人公」を目指すなら、教師がしゃべり過ぎてはいけない。もっと大胆に、失敗を恐れず子ども主体の授業を。
- ・子ども主体の活動を保障することと、必ず扱うべき目標や指導事項との兼ね合い。取り組み方に適切な「条件」を設定することが大切。
- ・子どもたちに委ねる一方で、低位の子への手立ても併せて想定したい。

2 仮説①、仮説②に関わる教師のマネジメント～具体的方策 ※訂正版 ※矢印は、本時案や単元計画に適宜挿入してください。

	<低学年>	<中学年>	<高学年>	
仮説① 課題設定の工夫	<b>①ゴールの見える課題設定（本時のゴール、単元全体のゴール）</b> 段階的な単元計画、適切な条件の設定（自力解決、交流、発表の仕方など）、		← ①ゴール	
	<b>②「やってみよう」と思える課題設定の工夫</b> 低学年～日常生活と関わらせ、意欲のもてる課題	<b>②「やってみよう」と思える課題設定の工夫</b> 中・高学年～児童の疑問から問いを生み課題につなげる、振り返りを生かして次の問いにつなげる		← ②課題設定の工夫
仮説② 学びの場の保障	<b>③児童が主体となって活動する時間の保障</b> 低学年20～30分	<b>③児童が主体となって活動する時間の保障</b> 中・高学年～30～40分		← ③時間の保障
	<b>④自己決定、自己選択の場の保障</b> 低学年～取り組む題材 など	<b>④自己決定、自己選択の場の保障</b> 中・高学年～取り組みたいテーマ、課題解決のための手立て（表現方法、調査方法、個人 or 集団）		← ④自己決定
	<b>⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる</b> 低学年～効果的なワークシート など	<b>⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる</b> 中・高学年～話し方や読み方・書き方など「学び方」の指導、段階的な単元計画		← ⑤アイテム
	<b>⑥子どもたちが安心して学習に取り組める手立て</b> 学習の見通しが明確に持てる、個々の学習状況の把握、児童主体の活動中の教師からの関わり（ヒントカードなど）、再チャレンジの機会の保障			← ⑥安心できる手立て
	<b>⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て</b> 低学年～挙手での発表、交流の経験を積む	<b>⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て</b> 中・高学年～全体交流の進行（指名計画）、小集団交流の目的の明確化		← ⑦共有

※特別支援ブロックは、各児童や学級の実態に応じて取組の段階を適宜選択する。

○8月全校研で特に重点とする項目

- ①ゴールの見える課題設定（本時のゴール、単元全体のゴール）
- ③児童が主体となって活動する時間の保障
- ⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる